



新 郡市医師会長 インタビュー

第2回 徳山医師会長 津永 長門 先生

と き 令和2年8月13日(木)

ところ 徳山医師会会長室

[聴き手：広報委員 岸本 千種]



岸本委員 本日は6月24日付で徳山医師会長に就任されました津永長門先生に、新会長としての抱負や意気込み、医師会病院の役割や徳山中央病院を中核とした周南医療圏の現状と医療連携などについてお伺いしたいと思います。津永先生、よろしくお願ひいたします。

まず、徳山医師会のご紹介をお願いします。

津永会長 徳山医師会は昭和10年11月に創立され、今年で85周年目を迎えました。17代目の津田廣文前会長の後を受けて、今年の6月の総会后より18代目の会長に就任いたしました。本年3月31日現在の会員総数は278名で、1号会員103名、2号会員153名、3号会員22名です。徳山医師会にはいろいろな組織があり、徳山医師会が本体となっており、その下に徳山医師会病院・医師会病院検査センター、徳山看護専門学校(全日制3年課程、定員210名)、在宅支援部6事業体制(訪問看護ステーション(2か所)、地域包括支援センター、訪問介護事業所、居宅介護支援事業所、サポートステーション歩れんど(定期巡回・随時対応型サービス))で行っております。そして、徳山医師協同組合も運営しております。

岸本委員 徳山医師会長は、徳山医師会病院の理事長と徳山看護専門学校の学校長も兼務されるの

ですね。

新会長に就任しての抱負をお伺いできますか。

津永会長 伝統ある徳山医師会の会長としての重責、昨今の医療を取り巻く状況、特に今年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、各会員の先生方のクリニックや徳山医師会病院の経営の先行き、医師会立看護学校の運営など難題山積で、押しつぶされそうなのですが、ウィズコロナ・アフターコロナの時代に適応した医師会運営に取り組んで参りたいと思っております。

岸本委員 いろいろな役職を兼務されているので本当に大変なことと存じます。徳山医師会病院もこのたび、山本憲男先生が新しく病院長に就任されました

津永会長 徳山医師会病院は完全オープンシステムの医師会病院として全国に誇れる病院と自負しておりますが、新棟移転後7年が経過し、新棟効果も薄れ、また、開業医の先生方の閉院も相次ぎ、増患対策に苦戦しております。しかし、山本新病院長を中心に活気も出てきており、また、若手の新入会員の先生方にも医師会病院を積極的に利用していただき始めていて、少し光明が見えてきているかなと思いますが、新型コロナウイルス

感染症の影響がジワリジワリと出てきており、油断はできません。

岸本委員 私も今日、こちらに伺って、とても綺麗な病院だと思いました。入口で感染対策もしっかりされておりました。看護学校についても教えていただけますか。

津永会長 徳山看護専門学校は3年課程で1学年2クラス、定員70名です。学校訪問や指定校制度、推薦入試、奨学金制度などで募集努力をしておりますが、これは山口県下の医師会立看護学校全体の問題にもなるのですが、少子化及び4年制大学の看護科の増加による高学歴志向もあり、入学者数が伸び悩んでおります。加えて、周南市に公立化を要望している徳山大学の看護科新設案の表明もあり、看護学校を取り巻く状況は非常に複雑化しており、これについても頭を悩ませておりますが、県下の医師会立看護学校と同じく、地元での看護師養成に貢献している自負もあり、生き残る方法を模索中であります。

岸本委員 周南医療圏の現状や課題についてのお考えを教えてください。

津永会長 周南医療圏には、県内でも有数の医療実績をもたれている徳山中央病院を基幹病院として、完全オープンシステムの医師会病院、周南市立新南陽市民病院の3つのキャラクターの違った大規模病院と、それを取り巻く中規模病院、開業医との病病連携・病診連携は比較的上手くいっていると思います。長年にわたり勤務医と開業医との懇談会も毎年開催しており、あらゆる機会を捉えて「顔の見える関係」を築いていきたいと思っております。

岸本委員 他の医師会との交流はいかがですか。

津永会長 下松医師会と光市医師会の先生方とはいろいろな会合でよく会いますし、周南医療圏の三師会の役員の先生方との交流会も年に何回か開催しておりますので連携はうまくいっていると思

います。

岸本委員 地域医療に貢献するためには行政との協力も重要かと思えます。特に今年は新型コロナウイルス感染症の問題に対応するために、より一層の協力体制が望まれます。

津永会長 行政との関係も、定期的に市長や議会との懇談会を開催しております。特に、新型コロナウイルス感染症の対策として、頻回に会議を開催し、下松及び光市医師会の先生方にも出席していただき意見交換をしております。地域外来・検査センターについても、できるだけ早期に設置する方向で話が進んでおり、近々、具体的方針が発表できると思います。

岸本委員 ありがとうございます。ここからは津永会長ご自身のことについて質問させてください。まず、ご略歴について教えていただけますか。

津永会長 山口市の生まれで山口高校から山口大学医学部へ進みました。県外へ出たのは、研修医2年目の時に北九州市の小倉記念病院に1年間勤務した以外は、ずっと県内にいます。

岸本委員 学生時代の思い出を教えてください。

津永会長 学生時代はバドミントン部で、部活が終わった後は飲みに出て、それから朝まで徹マンばかりしていたので、授業にはあまり出席していませんでした。でも、追試は受けなかったですね。

岸本委員 全くそのようには見えませんでした。先生は本会報の「飄々」にも山登りやマラソンのことを書いておられました。それらを含めたご趣味について教えてください。

津永会長 バドミントンは、看護学校に立派な体育館がありますので、機会があれば職員や開業医の先生などのサークルに参加させてもらっています。あと、ここ10年くらいはマラソンや自転車

のロードレースにも出場しています。

岸本委員 自転車のロードレースは、どのあたりまで行って出場されるのですか。

津永会長 琵琶湖一周、しまなみ海道など、いろいろエントリーしているのですが、仕事の関係で半分くらいはキャンセルになりますね。また、今年は新型コロナの関係でエントリーしていたマラソン大会がことごとく中止になりました。山登りについては、百名山を高い山・難しい山から登っていますが、なかなか連休が取れないので、遠征は年2～3回で、まだ17座しか登れてません。

岸本委員 山登りは学生時代からされていたのですか。

津永会長 山登りは50歳になってからですね。仕事柄、時間がいつ空くかわからないので、暇を見つけたら一人で登っています。都合がつけば息子が付き合ってくれることもあります。

岸本委員 山の良さを感じるのは、頂上まで登られた時ですか、それとも下山された時ですか。あるいは調べたり計画を練っている時ですか。

津永会長 事前に念入りに調べるのですが、そこに行ってみないと、なかなかわからないことが多いところが面白いのと、やはり達成感が持てる頂上に立つのが醍醐味ですかね。

岸本委員 「海」、「水」の方はいかがですか。

津永会長 釣りをしており、冬はワカサギ釣りが趣味で、毎年2月に行われる豊田湖ワカサギ釣り大会に参加していて前回は準優勝でした。

岸本委員 凄いですね。判定の基準は数ですか、それとも重さですか。

津永会長 重さです。昨年は、400匹くらい釣って、釣り上げた数では勝っていたので、てっきり

優勝かなと思ってましたが、総重量で順位を決めるため、負けました。

岸本委員 先生は引き出しが多くて素晴らしいですね。健康管理など気をつけておられることはありますか。

津永会長 甘い物を食べることも、お酒を飲むことも好きなので、運動しておかないと体重がかなり増えてしまいます。コレステロールも高いので薬を飲みながら運動して気を付けてます。

岸本委員 次に、座右の銘を教えてくださいませんか。

津永会長 いろいろありますが、一番は、「恕」^{じよ}ですね。これは論語からの言葉で、

子貢問うて曰わく、

一言にして以て終身これを行うべき者ありや。

子曰わく、其れ恕か。

己の欲せざる所、人に施すこと勿れ。

という有名な一節が出典です。小学生の時、萩の明倫小学校から転勤されて来た国語の先生が担任になった際に、毎回、授業の初めに吉田松陰先生と論語の言葉を暗唱させられたので、その頃に覚ええました。

岸本委員 大変難しい言葉ですが、小学生時代の先生の心に響くものがあつたのでしょうか。深い小学生だったのですか。

津永会長 みんな覚えさせられていましたからね。「恕」とは他人を思いやる心、思いやりという意味ですが、医療の現場にももちろん必要なことですが、現代社会に最も必要であり、足りていないことだと思います。芸能界でもSNSで心ない人達から批判されて自殺者が出てますよね。また、ツイッターで言いたい放題の彼の国の大統領にこそ、論語を読んでほしいと常々思っています。

岸本委員 次に、産婦人科医として少子化対策についてのご意見をお願いいたします。

津永会長 昨年の出生数が86万人に急減して、初めて90万人を割りました。周南市の出生数も、10年前には月100人以上あったのが、最近では70～80人台、時には60人台になることもあります。少子化対策の一番の決め手は、如何に早く結婚してもらう、結婚しなくてもフランスみたいに婚外子が当たり前という社会状況を作っていくことだと思います。女性で初婚年齢が30歳に近く、結婚しても、しばらく二人だけの生活を楽しんだりして、初産年齢が30歳代後半や40歳代ということも珍しくなくなっていると思います。

岸本委員 出産後、20年プラスアルファの体力的・経済的な負担の問題もあるのではないかと考えているのですが。

津永会長 そういう意味でも逆に若いうちに産んでおけば、まだ体力的にも経済的にも何とかなると思いますし、もちろん、政府や自治体のバックアップも必要です。例えば、40歳で出産されると、子どもが大学に行く時期には、旦那さんは定年になってしまって教育費用や結婚費用などの問題も出てきます。産んだ子供の世話を親に頼むにも、両親が高齢でそれもままならないという人もおられます。また、高齢で出産すると、2人目というのも年齢的にも厳しくなるので、可能であれば早く産むに越したことはないと思っています。しかし、これは個人の問題であることから「産んでください」と大きな声では言えませんが、産科医・男性の立場からすれば、女性にしか産めないわけですからね。

岸本委員 若い世代へのメッセージやエールをお願いできますか。

津永会長 自分は今でも若い若いと思っていますが、こういうことを聞かれる歳になったんですね。若い医師へのメッセージとしては、「Don't think! Feel!」です。少し言い方を換えれば、「Don't think! Work!」、「頭で考えるな。とにかく働け。」です。昔の話を持ち出すと、鼻白まれそうですが、若いうちは24時間365日働いていました。も

しろんバブルの時代でしたので、良い思いもたくさんありましたが、その頃に経験したことは、今も血となり肉となっています。研修医の時、ある患者さんを先輩に任せて遊びに行こうとしたら、「お前にとっては大勢いる患者さんの一人かもしれないけれど、患者さんにとっての主治医はお前一人なんだ!」と言われ怒られたことを今でも思い出します。

岸本委員 その言葉は先生にとって得るものが大きかったわけですね。

津永会長 そうですね。あとは先ほど言いました「怒」、思いやる心を忘れないようにして頑張ってもらいたいです。

岸本委員 最後に、先生は今まで広報委員としてたくさんの方にインタビューをされてきた大ベテランですが、今回、インタビューを受けられてみての感想を一言お願いします。

津永会長 非常に緊張しました。でも、段取りはわかっていますし、よく知っている先生にインタビューしていただいたので、その分、少し気が楽でした。

岸本委員 本日は、貴重なお話をお聞かせいただき、ありがとうございました。先生の今後ますますのご活躍を期待し、インタビューを終了いたします。

[あとがき]

県の広報委員も長く務められ、年は私より若いのですが、広報委員としては大先輩です。診療も医師会活動も精力的に続けておられるのに加えて文武両道です。インタビューの日はお盆でした。猛暑の昼すぎ、先生はスクラブ姿で廊下を颯爽と歩いて来られました。「今、手術を済ませたところで、夕方からはお産の予定」と軽やかにおっしゃいました。体力や素質が凄ただけでなく、集中力と切り替え力が、ご活躍の秘訣かと推察しました。